

令和5年度第2回社会教育委員会議日本民家園専門部会 議事録

- 1 開催日時 令和5年7月22日(土) 13:30～15:30
- 2 開催場所 日本民家園 旧原家住宅2階
- 3 出席者 委員 高橋部会長、大野副部会長、菅野委員、原田委員、
長谷川委員、柴田委員、今委員、松本委員
事務局 澁谷園長、東担当係長、葉山担当係長、藤川担当係長、真保職員
- 4 議題
 - (1) 令和6年度事業計画について
 - (2) 川崎市立日本民家園運営基本方針について
- 5 傍聴者 0名
- 6 会議内容
 - 1) 園長挨拶
 - 2) 会議成立の確認、資料の確認
 - 3) 報告事項
 - (1) 民家園の近況について(来園者数、企画展・イベント等)
 - (2) 工事の状況について(耐震補強、屋根葺き替え、園路整備)
 - (3) 緑化フェア・市制百周年事業について
- 7 議事

(議題1) 令和6年度事業計画について

[1 保存・研究・展示・普及活動]

(1) 文化財の保存・調査研究の推進

高橋部会長：山田家や水車小屋など、耐震補強工事や屋根替え工事を当面予定してしない家については、電気関係の傷んだ箇所や不具合の調査をして、見つかったら改修するということか。今現在不具合が見つまっているのではないのか。

葉山担当係長：そのとおりで、現在見つまっているわけではない。

大野副部会長：シロアリ調査は現在4年目だが、結果はどうなっているのか。

葉山担当係長：60 か所ほどに餌木入りの短い塩ビ管のような仕掛けを地中に埋めて調査を行っている。定期的にシロアリがいるか確認し、いた場合は餌を毒餌に変えている。4年間行くと何回実施してもシロアリがないところがあるので、いそうなところに仕掛けを移していくなど、生息している場所を絞り込み、探っていきたい。

大野副部長：仕掛けはどこに設置しているのか。

葉山担当係長：園内全域に分布させている。ただ土系舗装をした部分には設置できない。乾燥しているところよりも、民家の脇など湿気がたまりがちなところを選んでいる。これまで棟持柱の木小屋や佐地家門・鈴木家周辺で生息を確認しており、木小屋の周りに他のところから仕掛けを移して増設したいと思っている。シロアリがいるとわかったら毒餌に変えるが、駆除できたか確認するため、その近くにさらに仕掛けを置いている。それでも分布の範囲をすべて網羅することはできないが、できる限り行っていく。ここまでは民家の周りの土の中の話だが、民家本体のシロアリの発生状況について業者とともに園内を見て回ったところ、過去に食われた箇所はあるものの、進行中の箇所はなさそうという判断だった。それでも油断はできないため、土中の生息可能性の高いエリアを絞り込めたら、シロアリが好みそうな家を中心に民家本体の駆除を行う家を抽出したい。本年度から準備していく。

大野副部長：木小屋は掘立柱なためシロアリに食われがちだと思う。伊藤家も木小屋に近い周囲に湿気がたまりやすい。井岡家や鈴木家の裏も湿度が高いため、気をつけてほしい。

菅野委員：江向家の資料整理について、該当資料は園で管理する民俗資料データベースに入っているのか。

園長：資料カードは作成しており昨年度までデータ入力をしてきたが、現物との突合せができていないため、江向家から改めて順番に行っていきたい。民家園は収蔵庫がないため、カードがあるが現物がない、あるいはその逆のパターンもある。そのような事実確認をしたい。

菅野委員：できればテンバコへの移し替えの際にデジカメで写真を撮っておくと、データ管理上よいと思う。

(2) 展示の充実

松本委員：音声ガイドサービスの継続について、先日古民家の前に貼ってある二次元コードを読み込んで試してみたが、手持ちの携帯電話で読み取れて内容も非常にわかりやすく、英文でも聞けるため、なかなかよいシステムである。ただ、委員である自分は興味を持って使ってみたが、一般来園者に対してはそこまで誘導する必要がある。二次元コードの近くに「ここにスマホをかざすと解

説が聞ける」といった旨の文字を入れると使い勝手がよくなると思う。

園 長：実は二次元コードは調子が悪い。Android は問題なく使用できるが、iPhone の場合、OS のバージョンアップにより、設定を変えないと聞くことができなくなった。その旨の補足説明を本館の二次元コードには入れている。iPhone のシェアが高いにもかかわらず残念である。これについての改善方法や誘導の方法等については検討していく。

柴田委員：「さわれる展示の設置」とあったが、古民家内にある「唐箕（とうみ）」などのことか。

園 長：展示室内のことを想定している。過去の企画展では卓袱台を用意し、上に置いたものを子どもが自由にさわれるようにした。狭い展示室だが、子どもがさわって楽しめるように工夫した。「さわれる民家解説」は現在内容を考えているが、案内の人間がいる前提でそっと土壁にさわってもらおうといったことを検討している。

柴田委員：炉端の会の活動で、古民家に置いてある民具、例えば唐箕の説明をする際に、さわって回してみることができればいいと考えていた。

園 長：壊れやすいものは難しいが、子どもは何かをさわると嬉しいので、壊れにくいものを考えて作っていききたい。

長谷川委員：前回と今回の企画展示を見学した。道具、例えば背負子（しょいこ）などがただ置いてあるだけだと、何にどう使ったのかがわかりにくかった。また、文字情報だけだと読まない人も多い。どういう風に使われていたのか、例えばスタッフが身に着けた写真を展示するなどの工夫をしてほしい。

園 長：解説のビジュアル化については、外国人来園者も言葉よりもイラストや写真で見せた方がよいことがあるため、工夫をしていきたい。

松本委員：企画展示は、令和5年度が「東北の手仕事」だが、令和6年度の一つ目が「べんりのひみつ大解剖！」で、とても一般受けするタイトルになっている。新企画の決定プロセスはどうなっているのか。

園 長：企画展示の担当を先に決める。担当者が出した案を職員間で検討し、わかりやすいように練っていく。

松本委員：「東北の手仕事」はどちらかというとも研究者が興味をひかれるタイトルだと思う。「べんりのひみつ大解剖！」は、私たちのような一般来園者が関心を持つと思う。年2回の企画展示であれば、一つは固めで深く探求できるようなテーマに、一つは一般の方が興味をひかれるようなものにしてはいいか。

園 長：民家園では「専門家向け」と「一般向け」ではなく、「一般向け」と「子ども向け」という考え方をしている。民家園の来園者は子どもと家族連れの割合が比較的高いため、子ども向けの展示をすることがしばしばある。その際はタイトルも子ども向けに工夫し、パネルの漢字も低学年の子どもが習わな

い字にはふりがなを振るなどしている。

松本委員：来年の二つ目の企画展示「おばあさんは川へ洗濯に…」にというタイトルも想像力を掻き立て、見たいと思わせるのでおもしろい。

今委員：私も新企画はおもしろそうだなと思った。また「企画展終了後の資料整理」とあるが、展示が終わるとすべてなくなってしまうのはもったいない。川崎市では GIGA スクール構想とデジタル化がとても進んでおり、小学校の副読本も全部 GIGA 端末で見られるように変えていっている。ビジュアル化という観点でも、道具の使い方などをパネルにするだけではなく、スライドや動画にして園の Web サイトで見られるようにすると、子どもたちが学校から見られるようになる。そうしたことを進めたらどうか。

園長：企画展にあわせて毎回「民家園だより」を発行している。このバックナンバーを原家 1 階に置いているが、pdf ファイルにして Web サイトでも公開し、一般の方に見ていただけるようにしている。資料としても読んで面白いものが多い。

高橋部会長：Web サイトでの公開も含めて民家園だよりは蓄積になっているし、企画展ごとに図録も作成し残していくので、やったきりで終わってしまう活動にはなっていないと思う。一部の博物館では企画展示にあわせて、短い概要の動画を作成し You tube で公開している。なかなか難しいとは思いますが、今後そういうことは考えているか。

園長：小学校の体験学習の事前説明を動画で作っているが、そうしたものをある程度蓄積しつつ、公開していきたい。動画は民家園の課題の一つになっているが、若い職員も増えてきたので取り組もうと思う。

菅野委員：企画展示は今後も民俗系のテーマが中心になるか。

園長：建築系の職員も入ってきているが、現状は企画展示の実施まではできていない。民俗の視点から建物にアプローチするような紹介ができるとよいと考えている

(3) 教育普及活動の充実

松本委員：中期目標に「コロナ終息後に再開」とある外国人向けの藍染めプログラムはもう再開しているのか。

園長：すでに外国人が藍染め体験に来ている。職員は片言でなんとか対応しているが、もう少し言葉がわかるように説明板を作るなどの工夫をしようとしているところである。

松本委員：民家園の Web サイトを見ると、英文の申込フォームはあるが、独立してしまっている。民家園の英文の案内があるところにリンクさせ、申込フォームに飛ぶようにすれば参加者ももっと増えると思う。最近では外国人旅行のあ

り方が変わってきており、単純に物を見るだけではなく、日本の文化を体験したい人が増えているようだ。ただ外国人の参加者が増えれば英語対応するための工夫も必要になってくるだろう。

園 長：リンクを貼るなどは改善できるように指定管理者に働きかけていく。

今 委 員：外国人対応について、ポケトークなどの通訳機は使わず、日本語でゆっくり話すなどしているのか。

園 長：最近は皆スマートフォンを持っているので、翻訳アプリ等を使いながら試行錯誤している。

菅 野 委 員：体験学習をする学校の目標数 150 とあるが、最初のページの来園学校目標数は 160 となっているのは体験以外の学校ということか。

東 担 当 係 長：小学校以外の学校を含めると 160 である。

[2 運営・管理活動]

(1) 博物館経営の強化

高 橋 部 会 長：「民家園ルールブック」は、具体的にどのような形で共有しているのか

園 長：入園料免除等の基本的なルールは民家園条例等で決まっているものの、窓口を運営しているとそこからはみ出す例外的な事例がいろいろ出てくる。民家園は窓口が3つあるのと、緑地内には民家園含め博物館が3つあるため、対応を統一しておかないと、後々苦情の元になってしまう。このため窓口の職員に聞き取りをしてルール化し、市と指定管理者で共有し、文書を作ってファイルに綴じている。事例が出た都度行っている。

高 橋 部 会 長：他の2館とも共有するのか。

園 長：必要があれば行う。民家園内で整理すべきものは園の中で統一している。

柴 田 委 員：炉端の会の入会時の研修で、民家園でやってはいけないこと、例えば絵具を溶いた水は決まった流しのみで捨てる等のことを学ぶが、民家園ルールブックとはそれと同じような内容を炉端の会に限らず、来園者に直接伝えるようなものだと考えてよいか。

園 長：最近の事例を紹介する。車いすの方は障害者手帳を持っていれば入園料免除だが、手帳を持っていない車いすの方の扱いはわかりにくい。条例等で調べた結果、手帳がない場合は免除できないことがはっきりしたので、ルールブックに記載して各窓口で共有した。

柴 田 委 員：川崎市立日本民家園運営基本方針の周知とあるが、この会議の資料として配布された基本方針の抜粋を一般にも公開して意見を聞くのか。

園 長：意見を聞くのではなく、完成したものを公式サイトで公開するという意味である。

柴 田 委 員：基本方針の抜粋については炉端の会会員にも意見を聞いているが、過去にこ

うしたことはあったか。

園 長：民家園として運営に関する基本方針を定めるのは初めてである。

菅野委員：運営基本方針はパブリックコメントをかけるのか。

園 長：教育委員会内部の決定事項になるため、パブリックコメントはかけないことになった。一般の意見を聞かないという意味ではなく、炉端の会や民具制作技術保存会、生田緑地マネジメント会議の自然環境保存管理会議などで意見を募り、反映させることは当然行う。

松本委員：今年の春にあしかがフラワーパークに行ってきた。SNSに出ている写真は思わず行きたくなるような素晴らしいものばかりであった。写真を掲載する人たちは体験した感動や喜びを SNS で発信してくれる。撮影スポットの設置は非常に大事であり、2, 3 か所ほど設置すると来園者数がかかり伸びるのではないか。

園 長：以前、美術展などは写真撮影禁止のものがほとんどだったが、最近是一部だけでも撮影OKになっているものが増えている。これはSNSによる広報効果を狙っている。来園者による SNS は無料の広報とも言えるため、利用しない手はなく、工夫のしどころである。

大野副部長：指定管理者構成企業のルート等を活用した広報とあるが、そのリストはどうチェックをするのか。事業評価をする際は、反応がどうだったかなどの指標がないと難しい。

園 長：広報は指定管理業務であり、指定管理者の報告書には広報実績が載る。3月の専門部会の事業評価の際には資料をある程度示せるようにしておく。

(2) 利用者の利便性・安全性の向上

柴田委員：危機管理体制の整備について、園路の危険箇所の点検とあるが、今日10時40分頃、とても大きな枯れ木が水車小屋手前の園路に倒れてきた。入園者の上に落ちなくて本当によかったと思う。倒れた木は切って園路脇に除ける対応をしてくれたが、まだ崖上に枯れた斜めの木が残っているので、早急に対応した方がよい。事故が起こってからでは遅いため、気を付けて園内を監視してもらいたい。

園 長：今お話があった通り、今日15mくらいの木が風もないのに唐突に折れた。民家園では台風の後には手分けして園路上の木を見て回るが、風も何もない日に唐突に倒れることを改めて認識し、日ごろの点検を強化しないといけないと考えた。園では毎年危険木の管理として、園路や古民家周辺の危険な木をチェックし、伐採・剪定を行っている。これが追いついていないのが一番の問題だが、改めて点検し、早急に対応していきたい。

柴田委員：最優先でお願いしたい。

高橋部会長：倒木の原因は究明できそうか。

園長：虫食いである。今、あちこちの緑地でカシノナガキクイムシという害虫による「ナラ枯れ」という現象が進行している。山を見てもらうと、夏なので緑のはずだが、ポツポツと茶色いところがあり、それが被害の出ているところである。立ち枯れたままになっているので、枯れた直後はいいが、時間がたつと木の幹が劣化し、唐突に倒れるということが起こりうるようだ。緑地全体にそういった木がたくさんあり、伐採を少しずつ進めているが追いつかず、緑地の園路を一部通行止めにしていて箇所がいくつか残っているのが現状だ。

高橋部会長：危険な木は、目視してもわからないものなのか。

園長：数が多く敷地も広いので難しいが、来園者の安全が一番重要なので、力を入れてやっていかなければならないと考えている。

高橋部会長：こうした事例は市に報告するのか。

園長：かなり大きな木が倒れたので、報告する。

大野副部会長：平成2年7月29日に太田家の焼損があった。30年以上過ぎていて、大きな災害の記憶はだんだん風化してくる。民家園は年に4回防災訓練を行っており、普段から防災にきちんと取り組んでいるが、改めて災害の恐ろしさを見直して取り組んでほしい。

長谷川委員：来園者サービスについて、「日陰で座って休める場所の増設」とは、古民家の中で休める場所ということか。

園長：現在は屋根がある休憩所が少ないため、少しずつ増やしていきたいが、工事を伴うためなかなか追いつかない。そのため、広い土間のある古民家では中にベンチをおいて飲食OKにしている。民家園は夏本当に暑いので、少しでも日陰で座って休めるようにしたい。

長谷川委員：古民家の縁側はとても雰囲気が良いので、休憩したりのんびりしたりできるとよい。昼寝ができる古民家を作って開放し、家族で寝転がってもらえるのもよい。涼しいし、夏休みの思い出にもとてもよいのではないか。

柴田委員：蚊帳について、今の人はほとんど知らない。以前民家園で蚊帳体験の催しをしていなかったか。

園長：以前は生田緑地のサマーミュージアムという夏のイベントにあわせて、納涼民家園という行事を実施し、その中で蚊帳の体験を行っていた。しかし、暑さの厳しい夏に人を集めるのは危険であると生田緑地全体で判断し、サマーミュージアムは別の季節にやることになった。このため納涼民家園もなくなり、蚊帳を吊る機会もなくなってしまった。しかしまた機会があれば蚊帳の体験を実施するのもよいかと思う。

柴田委員：蚊帳そのものはまだ保存しているのか。

園 長：保存している。

高橋部会長：夏の行事は難しいということだが、打ち水など水関係の行事を企画展と絡めてやるとおもしろいのではないか。

（議題2）運営基本方針について

（1）伝える博物館

菅野委員：一般の人のことを「利用者」または「一般利用者」と表現しているが、来園者に限るのか、それとも一般市民も含むのか。用語の使い方はどのように考えているのか。

園 長：「来園者」で統一しようかとも考えたが、来園しないで利用する方もいる。それも含めて考えると「利用者」という表現が一番適切だと考えているが、より適切な言葉があればぜひご教授願いたい。

菅野委員：そうした考えがあっても構わない。ただ、調査研究の成果の還元対象として「一般利用者」とあるが、これは利用する人に限らないと思われる。場合によっては「一般市民」などがよいかもしれない。

園 長：市民という言葉が適切か悩ましい。川崎市立の施設ではあるが「日本民家園」なので、当然市外の利用者も想定される。

高橋部会長：「利用者」と「一般利用者」が出てくるが、どちらかにしたほうがいいか。

菅野委員：具体的に園を利用する人という意味の「利用者」と、研究者と並列で挙げる際に使う「一般利用者」ということだと思うが、「一般市民」のほうがよいかもしれない。

高橋部会長：1回整理した方がよいかもしれない。明確に分けず全部「利用者」としてもよい。「研究者」というのもわざわざ言う必要はあるのだろうか。

菅野委員：「社会」でもよいかもしれない。

高橋部会長：「社会」に還元するという言い方もあるし、「市民」も「川崎市民」というだけではなく、citizenの意味もある。

大野副部会長：柔らかく「みなさん」などの方がよいと思う。「利用者」だと役所言葉という感じがする。

柴田委員：博物館だと「利用」というより「見学」ではないのか。「利用」だとスポーツジムやプールのように聞こえる。

園 長：従来は基本的に来園した人を対象としていたが、コロナ以降来園しなくても利用できるようにWebサイトを充実させるなどした。こうなると、「来園者」という言葉は適切ではないと思った。

高橋部会長：園の研究成果を広く活用するというのであれば来園することは必要ない

し、資料や画像の利用もあるから、範囲は広げた方がよい。

菅野委員：博物館法では「一般公衆の利用に供し」となっている。「公衆」という言葉は古めかしくはあるが。

園長：用語は工夫する。

松本委員：基本方針は印刷物にしたり公開したりするのか。

園長：Webサイトで公開し、いつでも見られるようにする。

松本委員：項番の振り方について、よく使う公式文書といろいろ違っており、特に「アイウエオ」を使うのはあまりなじみがない。

園長：役所の文書のため、役所の項番の振り方を使っている。

大野副部長：私も順番がわかりづらく感じた。もう少し細かく番号を振る等するとよい。

園長：今回の配布資料はベタ打ちで作成しているが、実際のはフォントや見出し等を工夫する。

菅野委員：配布資料は4ページから始まっているが、前文があるのか。

園長：前の部分に方針作成の背景説明や施設概要等が入る。後ろにはアンケート結果等の資料が入る予定である。今回資料は一番重要な活動方針の部分の抜粋である。

菅野委員：最終的な決定は教育委員会がするのか。

園長：そのとおりである。

菅野委員：今回見た範囲ではよく考えられて、コンパクトにまとめられていると思う。

園長：基本方針の案は、炉端の会、民具製作技術保存会、生田緑地の自然環境保全管理会議、役所内の関連計画である生田緑地ビジョンや芸術文化振興計画等を所管する各部署にも内容を確認してもらっている。様々なやりとりをする中で修正すべき点を修正していきたい。

(2) 安全・安心な博物館

高橋部長：民家園には建物や園路だけでなく収蔵資料もあるので、その保全も防災方針に入れた方がよい。

菅野委員：豪雨対策のところで、台風等であれば風害により倒木や屋根の破損につながるし、土砂災害も起きうる。生田緑地はかつて土砂災害で大きな事故もあったし、これらの災害も記載に加える方がよい。また植栽方針のところで、今現在進行しているのはカシノナガキクイムシによるナラ枯れだが、運営基本方針は数十年使われるものなので、個別の虫や病名を挙げるよりは、「病害虫による枯死」などの表現にした方がよいのではないか。

園長：たしかにそのとおりである。また、台風の土砂災害については民家園独自に打てる手はあまりないが、近年台風が非常に大型化していて、毎年一番心配なことである。

大野副部長：そうした時は、以前もあったが、事前に休園を決定し周知するなどソフト面
で対応できることもあると思う。

(3) 人の中心にある博物館

大野副部長：「大学・建築団体・研究機関との連携」も含め、「伝統的建築技術に関する情
報発信」を入れてくれたのはありがたい。ぜひ実効性のある形で発展させて
行ってほしい。

高橋部長：地域との連携は入っていないのか。多摩地域との連携、例えばお祭りに民家
園が出店するなど。今は、地域・町の中に博物館が存在し、一緒に人を呼び
込む、または活動する等のが求められることが多いが、そうした街づく
りに関係するオファーはないのか。

園長：オファーはあるが、地域連携に本腰を入れる場合、人手や時間が多くかかる。
今後民家園の体制について人員の強化はほぼ見込めず、現状の人員ではそこ
まで人手を割けないことが想定されるので、無理をしない範囲で書いている。

大野副部長：できるとしたら、協力団体の協議会等に加わってもらおうなどだろう。民家園
としては、あくまで炉端の会や民具製作技術保存会などの活動が園内の活性
化の根本で、それは維持して行ってほしい。

園長：生田緑地マネジメント会議には、かなりの数の地域のボランティア団体や市
民団体が加入している。それらと連携するだけでも大きな業務量になると思
う。

菅野委員：市民活動団体との協働のところで、「無形文化財」とあるが、「無形民俗文
化財」または「無形の文化財」がよいだろう。また生田緑地各施設との連携
のところで「客層」という言葉を使っているが、表現を見直したほうがよい。

園長：よりよい言葉を検討する。
運営基本方針については、今後、本会議も含め皆様からいただいた御意見を
踏まえて案を修正し、第3回専門部会の前にお送りするので、またぜひご意
見をいただきたい。

8 今後の予定

- ・令和5年11月 第3回専門部会 園内視察
- ・令和6年3月 第4回専門部会 令和5年度事業評価

以上について事務局より連絡。

<15:30 閉会>